

第2回 まわりの人も協力を

百合子さんは、ヨシ子さんが今後も独り暮らしを続けていけるかどうか、とても不安になりました。しかしヨシ子さんは「ここで暮らしたい」という気持ちが強く、今後も住み慣れた家で生活することになりました。百合子さんは、近所の人やヨシ子さんの友人に、「最近、物忘れがひどくなってしまった。何かあったら私のところに連絡してください」と伝えました。



登場人物



○ よい例

× 悪い例



【解説】
認知症があつても以前と同じように集まりに参加するにはまわりの理解が必要です。本人がたとえ間違つたことを言つても、それを正すのではなく、関心事を他に向けたりすることで落ち着くことができます。本人の言われることを否定せず、一度は受け入れることがポイントです。